

(お 知 ら せ)

平成 2 2 年 8 月 6 日
第 2 6 回国民文化祭京都市実行委員会
(事務局：国民文化祭推進課 366-1495)

「第 2 6 回国民文化祭・京都 2 0 1 1」 ラッピングバスデザイン入賞作品について

第 2 6 回国民文化祭京都市実行委員会では、平成 2 3 年秋に京都府内各地を会場に開催する「第 2 6 回国民文化祭・京都 2 0 1 1」を P R するため、全国から応募いただいたラッピングバスデザインについて、最優秀賞作品ほか 1 3 作品を下記のとおり選考しましたので、お知らせします。

記

1 受賞者(五十音順, 敬称略)

最優秀賞(1点, 賞金10万円)

わきもと しんや
脇本 慎也(滋賀県大津市在住)

優秀賞(3点, 賞金1万円)

あらたに よう
荒谷 洋(西京区在住)

すがぬま みほ
菅沼 美保(左京区在住)

はやした ごん
林田 厳(福岡県福岡市在住)

佳作(10点, 1000円相当の記念品)

かさ ゆうき
笠 雄喜(福岡県久留米市在住)

かねがえ
鐘ヶ江 マテウス シング ジュニオ(愛知県みよし市在住)

きたの れい
北野 玲(岐阜県岐阜市在住)

くどう まさや
工藤 雅也(北海道札幌市在住)

こしば まさき
小柴 雅樹(兵庫県宍粟市在住)

こぼり ふじお
小堀 不二夫(愛知県名古屋市在住)

しま なおや あんざい さとし
島 直也及び安西 智(東山区在住)

たかせ ひろし
高瀬 洋(三重県伊勢市在住)

なかお まさひこ
中尾 方彦(山口県下関市在住)

みやもと みきこ
宮本 幹子(北区在住)

作品デザインは別紙のとおり

佳作については、以下のホームページに掲載しております。

http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-3-7-0-0_1.html

2 選定理由

- ・ 国民文化祭を広く P R できること
- ・ 京都らしいデザインとなっていること



P R 隊長 まゆまる

3 募集期間 平成22年3月23日～6月30日

4 応募総数 389作品(327名)

5 審査

審査委員会：平成22年7月9日(金)10:00～12:00

審査委員：委員長 内山 修 (京都市文化市民局国民文化祭担当部長)

副委員長 高井 節子(京都市立芸術大学美術学部講師)

委員 黒飛 恵子(京都精華大学事業推進室長)

委員 中村 真秋(㈱エフエム京都営業開発部営業グループ参事)

委員 山舗 恵子(京都リビング新聞社総括編集長)

委員 青柳 良明(京都府国民文化祭推進局企画調整課長)

委員 畠中 一男(京都市交通局営業担当部長)

6 ラッピングバス

対象：市バス1台(202号系統等)

走行期間：平成22年10月下旬～平成23年11月上旬(約1年間)

7 パネル展示

「道の日」記念事業における展示

ア 日時：平成22年8月10日(火)14:30～15:30

イ 場所：ゼスト御池河原町広場

最優秀作品及び優秀作品の4点のみの展示となります。

市役所総合案内所前ロビーにおける展示

ア 日時：平成22年8月10日(火)～8月20日(金)

ただし、14日(土)、15日(日)は閉庁日

8:45～17:30(初日は16:00から、最終日は16:00まで)

イ 場所：市役所総合案内所前ロビー

その他

平成22年度に3回程度展示を行う予定です。(日時・場所未定)

8 その他

- ・ 実際のバスにラッピングするデザインは最優秀賞作品に補作・修正を施したうえで決定しますので、決定次第改めて発表します。
- ・ 入賞作品の表彰式は別途開催しますので、詳細が決まり次第お知らせします。

第26回国民文化祭・京都2011

国民文化祭は、全国各地で様々な文化活動に親しんでいる個人や団体が、日頃の成果や実力を披露するため、全国的な規模で発表し交流する「国内最大の文化の祭典」であり、昭和61年から各都道府県の持ち回りにより開催されています。平成23年10月29日(土)～11月6日(日)(9日間)には京都府内全域で約70の事業が開催されます。

京都市では、この国民文化祭において、市民の文化振興の気運を高めるとともに、京都が長く歴史の中で培ってきた日本文化の神髄を披露し、その魅力を国内外に広く発信するため、合唱や吹奏楽など13の事業を実施します。

最優秀賞 わきもと しんや
脇本 慎也さん

(作品のコンセプト及びアピール)

京都市が主催する13事業をまゆまろに体験していただきました。「こころがワクワクして、とても楽しかったよ!」とまゆまろはコメントしています。

ラッピングバス全体のイメージは洛中洛外図をモチーフにし、京都のあちこちでイベントを開催していることをアピールしています。

京都の魅力を伝えるために、あえて透明水彩で手書きをしてレイアウトすることで、柔らかく、しっとりとしたイメージで仕上げています。

<左側面>



<右側面>



<後面>



【ラッピングイメージ図】



優秀賞 あらたに よう
荒谷 洋さん

(作品のコンセプト及びアピール)

優雅で趣あふれる王朝絵巻。京の四季を背景に国民文化祭の準備が着々と進行中です。

<左側面>



<右側面>



<後面>



【ラッピングイメージ図】



優秀賞 すがぬま みほ
菅沼 美保さん

(作品のコンセプト及びアピール)

まず、国民文化祭のデザインのコンセプトが京都の伝統文化や歴史を表現した「京都らしさ」が感じられ、広く国民文化祭をPRできるものということで、私は「京都らしさ」とは「和」と「町家」だと思いました。

そのため、右側面は町家を全面に描き、さらに事業名もパッと見ても見やすいようデザインしました。左側面には、マスコットキャラクターのまゆまるのインパクトの強さを生かして、三味線や絵画、日本舞踊をしている姿を描き、見る方々の興味を引き付けられるデザインになるよう考えました。

<左側面>



<右側面>



<後面>



【ラッピングイメージ図】



優秀賞 はやしだ ごん
林田 巖さん

(作品のコンセプト及びアピール)

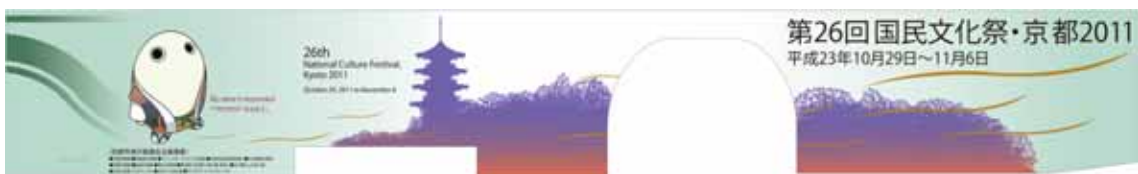
京都の景観に、市営バスのデザインに馴染むよう全体的な色等を配慮しました。ラッピングした時に、デザインがうるさくならないように、シンプルさを心掛けました。シンプルさの中に、シルエットのイラストのリアル感を出しました。シルエットにする事により、外国人観光客にもアイキャッチとして認識出来るようにしました。

開催期間を考え、紅葉のイメージを出しました。風の流れ(黄土色の波線はゴールドのイメージ)は鳳凰が飛び去った尻尾のイメージです。イラストは自身で描き起こしておりますので、使用に関しては問題ございません。書体も、あえて癖のあるものは使っておりません。

<左側面>



<右側面>



<後面>



【ラッピングイメージ図】

